

原爆投下 79 年 核兵器の廃絶を訴える
— 平和集会を開催 —

KAKKIN は 8 月 5 日 (月) に広島平和地方集会を、また 8 月 8 日 (木) に長崎平和全国集会を開催し、参加者全員で核兵器のない世界の実現を誓った。

■ 広島平和地方集会



KAKKIN 広島 永山議長

冒頭、主催者を代表して永山博之 KAKKIN 広島議長 (広島大学大学院教授・KAKKIN 副議長) は「ロシアのウクライナ侵略によって、核兵器の存在意義を下げていくことがなかなか進まない」と述べ、核軍縮・核廃絶の動きが停滞している現状に危機感を示し、志を合わせて運動をすることの大切さを訴えた。被爆者支援については、いま広島県には約 51,000 人の被爆者がいるが、医療・援護団体を通してこれからもしっかりと活動を続けたい、と挨拶した。



KAKKIN 本部 渡邊議長

また本部を代表して渡邊啓貴議長は「この 2 年半ほど核兵器廃絶の考え方を内部で議論をしてきたが、一定の整理がついた」として、これを踏まえてどのようにして運動を活性化させるかを考えなければならないと述べた。さらに 10 月には 2018 年以来 6 年ぶりに韓国被爆者支援の団を派遣することに触れ、協力を求めた。

カンパ金 (医療器具) は、広島赤十字・原爆病院、被爆者団体を管轄する広島市、医療法人財団愛人会、特別養護老人ホーム清鈴園の 4 団体に贈呈し、代表して広島赤十字・原爆病院の古川善也院長より謝辞を受けた。また、広島市より感謝状を拝受し、最後に平和集会アピールを採択して式典を終了した。



広島赤十字・原爆病院へ贈呈

この後、第二部として永山議長から「日本『反核』運動の歴史～1950年代から現在まで」と題した講演が行われた。いま日本には核兵器廃絶を目指す団体は3つ（KAKKIN、原水禁、原水協）あるが、目的が同じであるにもかかわらず、なぜ別々に運動しているのか。そこに至る背景、経緯と原子力の平和利用に対する考え方の違いについて話があった。また既存3団体以外の新しい「反核兵器」団体の動きにも話がおよんだ。



永山議長の講演



来賓
玉木雄一郎 衆議院議員
(国民民主党)



来賓
森本真治 参議院議員
(立憲民主党)



来賓
平林 晃 衆議院議員
(公明党)

■ 長崎平和全国集会

集会は長崎市立長崎中学校音楽部「爽（そう）」による“にじ”“クスノキ”“千羽鶴”の3曲のハンドベル演奏で開会した。



市立長崎中“爽”のハンドベル演奏



和田副議長の講演

第一部として和田修一氏（平成国際大学名誉教授・KAKKIN 副議長）が「核軍縮と首脳外交：冷戦末期の軍備管理と核軍縮から何を学ぶべきか」と題して講演を行った。1962年のキューバ・ミサイル危機で米ソが核戦争直前になったことを起点に、軍備管理の考え方や核兵器不拡散条約の発効とその限界、米ソ首脳外交による核軍縮成功の要因といった歴史を振り返り、今すべきこととして、核軍縮の理論構築と国際世論の喚起および信頼醸成構築

のための外交推進と国際的枠組みの強化を指摘した。



KAKKIN 長崎 松尾議長

第二部の式典では、KAKKIN 長崎を代表して松尾敬一議長は、いまの核兵器を巡る状況はキューバ危機以来の厳しさだとし、自身の被爆体験を踏まえ「一般市民を無差別に殺戮するのが核兵器だ。絶対に無くさなくてはならない」と核兵器廃絶運動の強化を訴えた。

次に本部の渡邊啓貴議長のあいさつの後、来賓の鈴木史朗・長崎市長は、いま核兵器の脅威が一段と高まっているとし「軍拡や威嚇ではなく対話と外交努力により平和的な

解決への道を探るべきだ。そして、長崎を最後の被爆地にするために、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けて行動する」と挨拶した。なお鈴木市長からは、KAKKIN のカンパ活動に対する感謝状を頂戴した。



鈴木長崎市長から感謝状

またカンパ金（医療器具）を恵の丘長崎原爆ホーム、長崎原子爆弾被爆者対策協議会、長崎純心大学、佐世保市総合医療センター、長崎原爆資料館の5団体に贈呈し、代表して感謝の言葉を堤房代・恵の丘長崎原爆ホーム施設長より受け、最後に平和集会アピールを採択して式典を終了した。



支援組織代表
UAゼンセン松浦会長



来賓 玉木雄一郎衆議院議員
(国民民主党)



来賓 秋野公造参議院議員
(公明党)

■ KAKKIN 役員が献花

8月8日午前、渡邊議長をはじめ KAKKIN 役員は平和公園にある平和に泉に献花し、黙禱をささげた。



■ 連合の平和集会に参加

KAKKIN は連合の平和集会に共催団体として参加し、8月5日の広島集会と8月8日の長崎集会で渡邊議長が登壇した。

連合集会では、広島、長崎の連合代表者に続いて、芳野友子会長があいさつをした。その後被爆体験証言、講演が行われた。



(参考)

- ・広島での講演
「被爆80年に向けて 被爆地広島課題と役割」
中国新聞特別論説委員 宮崎智三氏
- ・長崎での講演
「地球の健康/人間の健康 そして核廃絶」
長崎大学核兵器廃絶研究センター長 吉田文彦氏